

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

な自らの人生に思いを馳せ、自分の人生が何事かを自分で選び取って歩んできたようでありつつも、その実は自分の生き方を変えたイエスに「運命の如く捉えられている」という人生の不思議さを実感しているのです。

このように人生の歩みをイエスのために選び出されることをキリスト教では「召命」(ラテン語vocatio>英語/フランス語vocation、英語calling)と呼びます。ドイツ語ではBerufが用いられますが、これは宗教改革者マルティン・ルターが旧約聖書外典(旧約聖書続編)のシラ書11章20、21節の翻訳において「職業」を意味するBerufを「神に召された使命としての職業=召命」という意味に用いて以降、ドイツ・プロテスタンティズムの術語になったものです(マックス・ウェーバー)。つまり、Beruf(職業)に就くというのは、神からのBeruf(召命)があるからだという考えです。

酪農学園は黒澤西蔵初代学園長のBerufによって創立され、キリスト教に基づく三愛主義を建学の精神として歩んできた唯一無二の学び舎です。わたし自身には牧師というBerufがあり、そこからさらに新約聖書学者としてのBerufへと進み、現在は酪農学園大学のキリスト教学教員をBerufとして奉職していますが、ふとした瞬間に自分の人生の歩みや酪農・農学系のキリスト教主義大学にいる現在の自分を不思議に感じます。イエスとの出会いという不思議な出来事を通して、思いもかけない方向に自分の人生が進んできたことを「運命の如く捉えられている」と実感しているということです。みなさんにも酪農学園に今学んでいるBerufから将来思いもかけないBerufに道が開かれていくかもしれません、パウロのように「運命の如く捉えられている」と実感できる人生を歩めるよう願っています。

【2021年度の感謝】

本日は2021年度の最終礼拝となります。リモート礼拝(動画の配信)として一年間の礼拝を実施してまいりました。礼拝の担当は宗教主任が行ってきましたが、キリスト教委員会の諸先生や学務課のスタッフの協力によって無事に運営することができました。そして、新型コロナウイルスのパンデミックの状況においても、変わらずにリモート礼拝にご出席くださった学生、教職員のみなさんに支えられていることを実感する一年でした。一年の締め括りに当たり、改めて感謝申し上げます。

【次回の大学礼拝】2022年4月12日(火)10時40分

次回の大学礼拝は新年度の礼拝となります。引き続きご出席をお願いします。礼拝の実施方法につきましては、大学危機対策本部の方針に基づき、キリスト教委員会で協議したうえで改めてお伝えさせていただきます。

【大学礼拝週報】2021年度 第30号(後学期第15号)

2022年1月18日(火)午前10時40分

リモート礼拝(酪農学園大学 黒澤記念講堂)

《大学礼拝》

〈礼拝動画の配信〉

前 奏

讃 美 歌 讃美歌21 520番(真実に清く生きたい)

聖 書 フィリピの信徒への手紙3章12節

奨 励 「運命の如く捉えられている」 小林昭博先生(宗教主任)

祈 り

讃 美 歌 酪農讃歌(黒土よ)

報 告

後 奏

【本日の聖書】フィリピの信徒への手紙3章12節

12わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。

【奨励】「運命の如く捉えられている」

フィリピ3:12は自分の人生が思いもかけない方向に進んできたことをイエスとの出会いという不思議な出来事として理解するパウロの正直な思いが記されています。パウロはユダヤ教の律法を遵守して歩んできましたが、ダマスコ途上で復活のイエスの啓示に触れて回心し、キリスト教の迫害者がキリスト教の宣教者に変えられるという回心体験をしました(ガラテヤ1:13-17、使徒9:1-16)。このダマスコの回心から、異邦人の使徒として、福音宣教に猪突猛進してきたパウロですが、その宣教生活の途中で何度も迫害に遭い(Ⅱコリント11:16-33)、フィリピ書を著している今はローマ皇帝の裁判を待つ未決囚として拘禁状態にあり、そう遠くない将来には処刑されてしまう運命が待ち構えています。パウロはこのよう